

こいのぼりによる

感電事故をなくしましょう

こいのぼりをたてる季節になりました。過去にこいのぼりをたてようとして、誤って電線にポールを触れさせ、感電した例がでています。

尊い人命を災害から守るため、次の点に注意しましょう。

◆こいのぼりが風に流されたり、ポールが倒れても電線に触れないだけの距離をとるようにしましょう。

◆もし電線の近くにたてる場合は東北電力へ連絡しましょう。



（広報紙中にある写真を欲しい方には）
おあげします

見なおしたい遊びの効用

五月五日は子どもの日である。その前端午の節句と言った。五月の青空に大きな鯉が風をはらんで、勢いよくたなびく姿には捨てがたい味がある。

この鯉のぼりには、強くたくましく威勢のいい子どもに育てようとする親の願いがこめられており、子を思う親心の今も昔も変らない証にもなっている。

私たちの生活は四季とのかかわりあい極めて強く、それが一つの節としていろいろな行事が繰り返りひろげられているが、子どもたちの世界も古来からそれに変わらない。

しかし、子どもたちの四季も昭和二十年代までと現代とでは、比較にならない程の違いが出てきている。

自然の中で強くたくましく

その昔農村部では、雪消えとともにたんぼにおどり出てグラウンド代りに使い、泥にまみれて遊ぶ姿は春の風物詩であった。たんぼが使えるとなると、遊び場は山へ移った。今は無理だが「戦争ごっこ」などが、大將がはなれた小僧たちを引きつれて野山をかけめぐったものである。

勝負が微妙な時は、取っ組み合いのけんかとなる。けがをす

るときもある。顔中傷だらけになるときもある。しかし親たちは、さして大騒ぎもしなかった。それはたくましさを増している証拠でもあったからだ。

弱い者は強い者に負ける。だから強くなれ。力の強いものがリードする男の世界がそこにあった。まことに動物感覚的な結論だが、これは当時の常識でもあった。

遊びの中で社会生活の訓練

子どもたちにとって遊びを離れての生活はなかった。遊びの中で目上に対する礼儀、いじめられても、こずかれても耐え忍ぶ精神が養われていった。遊びの中に社会生活の訓練があり、機能の訓練があったのである。

唐沢富太郎著によれば、遊びとは活動そのものが目的であり、全身全霊を打込んで遊んだ子ども時代経験が、やがて大人になってから、自分の仕事に本当に打込めるような人間になる重要な基礎となると言っている。

先頃中学生がクラスメイトを、家の中と病院で殺傷した事件が相ついだ。ある側面から見ると、遊びで培われる精神の何かが欠けていると思った。現代にはそんな風潮がちらつく。

写真 高千農村公園で

まされる宝

子にしかめやも

山上憶良（やまのうえのおくら）は万葉歌人であります。たいそうあたたかい心の持主で、貧しい人々に深い同情をよせ、その気持ちをうたった人であります。

憶良は、六十二歳で筑前守（ちくぜんのかみ、福岡県の大官）となりました。

このとき、子どもや妻を奈良の都に残して遠い地にあつたわけでありましたが、大げいの子どもたちを思い、憶良がその気持ちを託したのが、有名な「子らを想ふ歌」で、「阿（うり）食（は）思（は）めば子ども思（は）ゆ栗（くり）食（は）めばましてしめばゆいづくよりきたりしものぞ眼（まな）交（か）い（い）し寝（な）さぬ」

その反歌として「銀（しろがね）も金（くがね）も玉も何せむにまさる宝子にしかめやも」といううたであります。

阿を食（は）べると、この阿を食（は）べたいと、こどもたちのことが思（は）い出される。栗を食（は）べると、なおい層（う）こどもが思（は）い。このように「いと子」というものは、いつたいどこからきたのだろうか。こどものおもかげが目と目の間にちらちいて、夜もやすらかに寝（は）むることができない。

銀（しろがね）と黄金（おうごん）であらうと、な（な）にならう。そんな宝より、こどもははるかにすぐれた宝である。と憶良はいつております。こどもがなにより宝であることは、今も昔もかわりありません。時代を超えた親心が生まれてきます。

憶良は叙景歌を作りましたが、もっぱら家族への情愛、庶民の日常生活を歌い、貧富の差や人生の目的にまで思（は）いをいたし、格調の高い歌を残しております。

「子らを想ふ歌」より

高千生活総合センター完成

栗の缶詰など農産加工に主体

事業費一千二百五十万円

四月二十二日午後三時から、高千生活総合センターの竣工式が行われた。

このセンターは、秋田県生活総合センター設置事業と、町の老人集会所施設補助などを得て建設されたもので、木造平屋建一九四、七〇(五九坪)平方メートル、事業費一千二百五十万九千円の内容であった。

愛林思想が大きな支え

当日竣工式の席上、小玉高千部落会長が「このたび、町をはじめ関係機関のご支援でこのような立

山菜、きのこ、くりの缶詰を

施設の特徴は、食品の加工及び

貯蔵施設を中心にすえられていることである。

食品加工は、山菜、きのこ、くりなどの缶詰で、高千部落には二

旧大川中学校跡地に

農村環境改善センターを建設

生産と生活環境整備の拠点
農村総合整備モデル事業で取り

組んでいる大川地区農村環境改善センターは、一月二十六日の起工式をスタートに、今盛んに建設がすすめられている。

このセンターは、大川地域の農業開発、生活の合理化と改善住民の健康増進、連帯意識の高揚など、生産と生活環境総合整備の拠点になる。

旧大川中学校跡に敷地は旧大川中学校跡で、面積三、二四三、二五(九八〇、七八坪)平方メートルにあってられる。

屋外には、クロマツ、ケヤキ、モミジ、ツバキなどを植えて緑地化をはかる外、休養施設として、パーゴラ一基、ベンチ三基、遊戯施設は、砂場、プレイウオール一式、富士型スベリ台、鉄棒、八角ハントウ棒、ヒコキジム、波型スベリ台各一基となっており、子どもから大人まで幅広く利用できる総合的な施設の配慮がされている。

敷地は緑の公園化

センター起工式でくわ入れをする町長



派なセンターが完成したもので、心から感謝している。

そして部落の先祖から受け継がれてきた山林も大きな支えとなっているが、これまた感謝している」とあいさつがあった。

確かにこの部落は、地の利を得ているところから、県行造林分収林、部落有林などに類を見ない資産をかかえている。それも一朝一夕に計画したものでなく、長く部落に培われた愛林思想によるところが大きい。

このセンターを中心に、部落がより緊密に、より飛躍してくれることを期待したい。

老幼親善

ゲートボール競技大会

先頃主婦と子供と老人の会、五城目町老人ボランティア共催で五城目町公民館職員の指導で、老人と学校児童(小学校四年から六年)の親和を目的に老人、児童対抗ゲートボール競技会を催したが、その時の成績と結果は次のとおりであった。

事務局 佐藤久之助

一、参加人員

老人四チーム 男八名 女十二名
児童四チーム 二十名

一般応援参加者 十八名

・競技順位 (三位まで)

第一位 築地町 児童チーム
第二位 一番町 児童チーム

第三位 女子 老人チーム

・会場は昭辰児童公園地

五城目町主婦と子供と老人の会



農村環境改善センターの完成予想図

神明社殿など

五城目町指定文化財決まる

五城目町教育委員会は、次の有形文化財四点を昭和五十二年五城目町指定文化財とした。

・神明社社殿(建造物)

五城目町字神明前
所有者 高泉 嘉光

馬場目寺庭
白山神社
管理者 佐々木鉄太郎

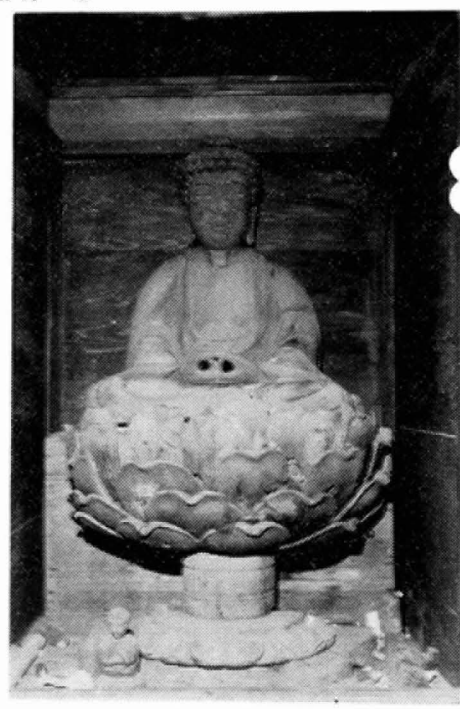
・阿弥陀如来坐像
(木造、彫刻)

いかにもこの地方のものらしく材料は杉材である。光背の失われた像容は、その手の位置から、薬師如来像ではないかという疑問も残る。また蓮台の材料が異なる。桃山時代のものと思われる。

・獅子頭
五城目町浦横町 保持者 小玉嘉一郎

・両界まんだら(絵画)
馬場目中村 保持者 児玉孫左衛門

けに迫力がある。また、副川神社の祭祀に昔用いられたものらしく寛文元年(一七八九)西五月十三日、倉光孫兵衛道友の銘がある。



的な形式を示して、描いて、密法であり室町時代の密教画をうかがわせる。これは、真言宗安養寺(庵寺)に伝えられたものと思われる。

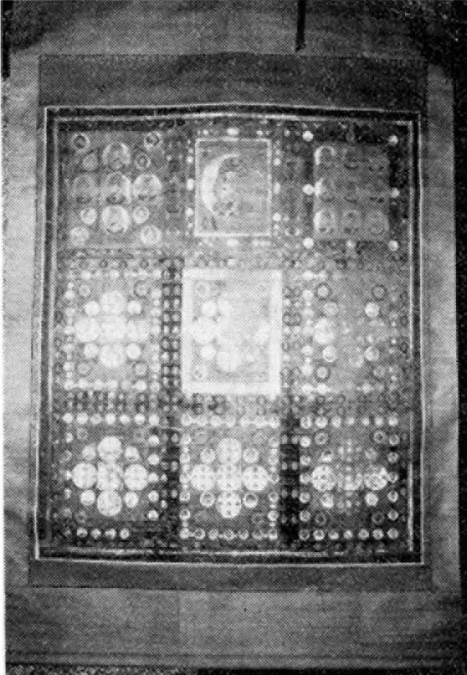
文化財保護専門委員会委員決まる

五城目町文化財の保護に関する条例第四条に基づく文化財保護専門委員(委嘱)がこのたび次のように決まりました。古文書や郷土の資料で未公開のものなどありましたら公民館を通じてご相談ください。何時でもお引き受けいたします。

- | | | |
|----------|----|------|
| 加藤 裕(再) | 無職 | 石崎 |
| 分銅 良一(再) | 住職 | 紀久栄町 |
| 島山 重悦(再) | 教員 | 下山内 |
| 小野 一二(再) | 教員 | 田町 |
| 小川 元生(再) | 商業 | 仲町 |



獅子神楽は、獅子頭を奉じて戸ごとを訪れ、祈とうをしたり一種の能を演じたりするものである。番楽も同じ系列の神楽である。獅子舞、権現舞ともよばれているが、芸能の獅子舞とは全く別のものである。この獅子頭は、伊勢流神楽に用いられたもので、外側の彩色はすっかり消えてしまっているが重厚で素朴な形をしている。それだ



五城目町の100年

89

矢田津世子

③

小野 一二

津世子が最初に文学修業の場として所屬した同人誌は、名古屋の「第一文学」である。次兄不二郎が名古屋に転動して、彼が北海道小樽にいる長兄にかわって一家の面倒をみる立場にあったから、一家は名古屋に移った。不二郎は末っ子の妹を愛し、その文学への道をかなえてやりたいと考え、「第一文学」の同人になるようにすすめたのである。

不二郎は現在東京都新宿区中井に住んで、相当の高齢であるが、以前重役をしている大和生命本社で会ったとき、もともと文学青年で自分が作家になりたかったが会社勤めで希望を生かす訳にはいかなかったってしまい、妹にその希望をつないだのだと、私に話してくれた。いわば、作家志望の津世子は、文学青年不二郎の身代わりだったのである。

津世子の晩年の傑作は「茶粥の記」といわれる。この小説の主人公は不二郎がモデルである。「秋田といつてもずっと八郎湯寄りの五城目という小さな町」が主人公の郷里だと書いている。五城目を舞台にした作品は、「野分」や「やどかり」であり「鶴ノ巣女房」には、赤ひげ先生まで登場するのである。

その後、津世子は東京に帰り文学修業に打ちこみ、さらに後に一家も帰京し中井に落ちつく。彼女は、その間林芙美子の「放浪記」が発表され、平林たい子、円地文子が発見されて、「女人芸術」や武田麟太郎、高見順らの「日曆」に所屬している。この二つは、昭和初期の最有力の同人誌であった。長い無名の時代を経て、やがて彼女が「日曆」が「人民文庫」と誌名を変えた昭和十一年(一九三六)三月に同誌に発表された「神楽坂」によって芥川賞候補となる。このときの授賞作は鶴田知也「コシャメイン記」、小田欽夫「城外」の二作だった。

矢田文学の底に流れる庶民への愛は、五城目の風土によって支えられているように思える。昭和十九年(一九四四)三月十四日、長い闘病の末に三十六歳で矢田津世子は亡くなった。墓は東京都田無市東本願寺田無墓地にある。

小学校一年の半ばまでしか、彼女は五城目に住まなかったが、五城目は彼女にとってただ一つの「ふるさと」だったのだらう。そして五城目には、彼女の文学の芽をはぐくんでくれた忘れ難い天地があったのであらう。彼女の小説にはマッチ箱とよばれた軌道が出てくる場面がある。五城目一日市間を軌道が走るのがある。津世子が五城目を去るのは大正三年春であり、上京するのは五年夏である。彼女は軌道の小さな汽車を見てはいない。それでも軌道が出てくるのは、五城目の情報がいとも彼女のところに送られており、彼女がそれをこられるように待っていたものであらう。

(終)

「二〇アール」に七百本の杉苗植える 全町植樹祭に二百人参加

二百人で七百本の杉苗植える
四月二十六日午前十一時から、
富津内岩見沢国有林第十林班(八
九・七九号)で全町植樹祭を行っ
た。

五城目営林署、同森林組合、五
城目町の共催であったが、前日ま
での悪天候とは打って変わり、青空
ものぞく好天に恵まれ、町内外か
ら二百人の参加者であった。七百
本の杉苗は二〇アールの面積に、
約一時間ほどで植付けられた。

二沢五城目営林署長のあいさつ
の中で、「森林は地球の面積の十
%しかないが、植物はその九〇%
が森林の中にある。今日植え付け
する二〇アールは何億分の一に相
当するだけの面積ではあるが、こ
のような積み重ねこそ大切なこと

ではないか。」と植樹の意義を述
べた。

外材は輸入できても
森林は買えない

また午後一時から町民センター
で行われた、火災防止懇談会の席
上、加賀谷町長は「この頃木を保
育するという言葉をよく見聞きす
るが、これには少しばかり抵抗を
感じている。少し前は撫(ぶ)育
と呼んでいた。保護して育てるこ
とと、かわいがって育てることに
自ずと違いがでてくるし、結果は
立派な森林になるかならないかに
かわわってくる。私は木は撫(ぶ)
育すべきものと思っている。木
に対する愛情論を語っていた。
能勢県林政部長は「外材が盛ん
に輸入されているが、森林の持つ
多面的な性格は輸入
できない。即ち、水
資源のかん養、国土
保全、レクリエーシ
ョンの場などである
植樹の意義は、木
材供給はもちろん、
これら間接的な効用
を十分活用するところ
にあると思う。森林
と人間と結びつき
を強調していた。



このあと山火事予
防対策について、森
林組合小玉参事から
民有林、営林署皆川
庶務課長からは国有
林の対策が次のよう
に発表された。

- 一、民有林
- ①広報活動による山火事予防運動の展開。
- ②警戒宣伝巡回による啓蒙宣伝。
- ③林内作業者に対する火気使用注意の徹底。
- ④危険地域のバトロール強化。
- ⑤火入れの届出制の徹底強化。
- 二、国有林

そばの栽培 (1)

転作物栽培シリーズ ③

- ①排水
- 排水のよい場所を選ぶこと、排水溝など十分ほる島畦にする
- ②石灰散布
- PH6.7に酸度矯正する
- ③施肥
- N4.5kg、P6.7kg K4.10a当り
- ④耕起
- なるべく細かく碎土する
- ⑤播種
- 6.7kg(10a当り)おそまきは9kg程(60cmのうね巾)

- ①山火事用心の横断幕の掲揚。
- ②山火事予防ポスターの掲示。
- ③宣伝カーによる管内巡回。
- ④地方広報紙への宣伝依頼。
- ⑤学校、関係業者等に対する協力要請。
- ⑥営林署作業者に対する指導。
- ⑦林野バトロールの強化と入林者に対する指導。
- ⑧病害虫
- 主な病気はうどんこ病、斑点病、虫はヨトウガなど。
- ⑨刈取
- 子実の70.80%位が黒色になった頃、朝つゆのあるうちに、小盛堆積、棒掛、架掛などして爪でつぶして内容が粉状になるまで行う。(水分15%まで)
- ⑩脱穀調製
- 爽雑物を除去する
- ⑪特性
- ①タデ科に属しイネ作物とは形態を異にする。
- ②普通の長さ6.4mm、巾4.1mm、千粒量27.9g
- ③発芽温度は最低0.4度、最適25.35度、最高37.40度
- ④根は主根が地中0.9.1.2mに達し多くの支根を出す根系は小型
- ⑤草丈は0.5.1.3m、茎は節部を除いて中空である。
- ⑥開花は午前9時前後に行われ、夜7.8時に閉花するが、受精しない花は翌日再び開く、一個体の開花日数は約22日とされる
- ⑦受精は他家受精で長柱花は短柱花の花粉で、短柱花は長柱花の花粉で高い受精率を示す。(虫媒が主体)

- ⑧開花期の最低気温が17度を越えて高温になると結果歩合が著しく低下する。
- ⑨星間の高温と夜間の低温、温度較差の大きい事が稔実を高める
- ⑩開花の早い小枝が稔実よく、小枝の中では下位の花房ほど良好である。
- ⑪成熟は著しく不揃いであり、完熟すると脱粒しやすいので70%位が成熟して黒色に変わった時、収穫し、後熟させる。
- ⑫土壌水分は75.80%で多少多湿を好むが、耐干性が強く耐酸性もある。
- ⑬N肥料が多だと、徒長、軟弱となり、倒伏の危険性がある。

量目は正確に 計量器定期検査

- 計量法第一三九条の規定により取引及び証明に使用している計量器の定期検査は左記により実施されますから、必ず受検するようにお知らせします。
- 検査日程表
- 5月8日(月)
- 馬場目地区 前10時.12時 農協馬場目支所倉庫
- 大川地区 後1時.3時 大川出張所
- 5月9日(火)
- 内川地区 前10時.12時 農協内川支所倉庫
- 富津内地区 後1時.3時 農協富津内支所倉庫
- 5月10日(水)
- 広ヶ野、希望ヶ丘、新畑町、雀館、田町、今町、新町、昭辰町、館町、御蔵町、小池町、中川原上樋口、川原町、一番町、樋口岩城町、古川町、紀久栄町 前10時.後3時 農協五城目支所倉庫(駅前)

- 5月11日(木)
- 仲町、米沢町、長町、築地町、畑町、矢場崎、高崎、館越、久保、野田、岡本、浦横町 前10時.後3時 農協五城目支所倉庫(駅前)
- 指定日に受検できない方は、他の検査場で必ず受検してください。
- 検査日には申請書、納付書手数料、印かん及びこの通知書を持参ください。
- 注意
- ①受検計量器はよく手入れをし前回の合格証を検査当日取り除くこと。
- ②指定日に受検しない計量器は最寄りの検査場で持参し必ず検査を受けたいと使用出来ません
- ③下の検査を受けたいと五万円以下の罰金に処せられますから脱検しないようにしてください。
- ※役場から連絡のなかった方でも気軽においでください。
- 危険物取扱者
試験のための講習会
- 消防法第十三条の規定に基づく昭和五十三年一度一回目の試験が七月二日に行われる。これに伴う講習会が、次のとおり実施される
- 講習会の期日
- 乙種第四類 六月一日、二日の二日間
- 丙種 五月三十一日
- 場所
- 秋田市山王四丁目 秋田県正庁
- 受講申込期日 五月十二日.五月十八日
- 受講案内は消防署予防係まで(電話二〇二八)

昭和五十三年

前期 技能検定、技能五輪秋田県大会

あなたの技能が秋田をになう

技能検定は、技能の程度を一定の基準によって検定し、技能の程度を公に証明する国家検定制度である。職種ごとに一級と二級に区分し試験を行う。技能検定に合格すると、一級は労働大臣から、二級は秋田県知事から合格証書が交付され、「技能士」と称することが認められる。

技能五輪秋田県大会は、技能五輪国際大会に日本代表として参加する選手を選ばず選で、全国大会で一位になった人は、技能五輪国際大会に日本代表として派遣される。能力主義の時代にそなえ技能者自身のため、産業発展のため受検されることをすすめる。

●技能検定

・受検申請受付期間

昭和五十三年五月一日(月)～五月十二日(金)

・実施職種

造園、製鋼、鋳造、機械加工、鉄工、板金、仕上げ、工具研削、電気機器組立て、婦人子供服製造、木工機械調整、木型製作、木工、製版、印刷、とび、左官、ブロック建築、タイル張り、畳製作、床仕上げ施工、熱絶縁施工、塗装、広告美術仕上げ

・受検資格

一級・実務経験十四年以上
二級・実務経験五年以上
●技能五輪秋田県大会

・参加申込受付期間

昭和五十三年五月一日(月)～五月十二日(金)

・競技職種

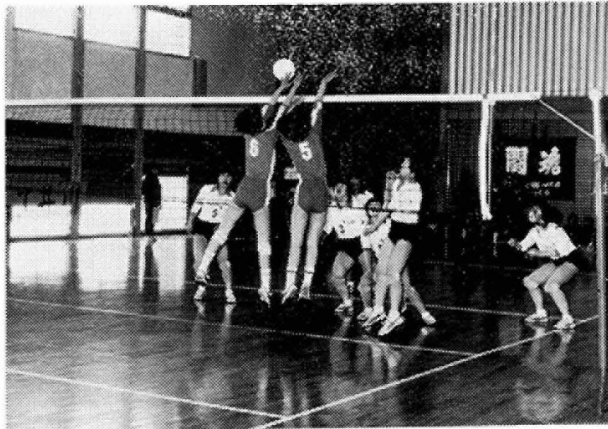
旋盤、フライス盤、構造物鉄工

板金、打出し板金、抜き型機械組立て、工場電気設備、洋裁、家具、建具、左官、広告、美術

・参加資格

昭和三十三年一月一日から昭和三十三年十二月三十一日まで生まれた人。

・受検申請手続、参加申込手続については役場産業課まで



五一中対雄和中の試合

男鹿南秋中学校バレー
全県招待バレー能代一中(男) 連勝
大湯中(女)

四月二十二日・二十三日、広域体育館で第七回男鹿南秋中学校バレーボール大会兼第四回全県招待バレーボール五城目大会が行われた。参加チームは男子十チーム、女子二十チーム。本町からは五城目第一中の男女、富津内中と杉沢中女子の四チームが出場した。

本町チームの成績は、杉沢中女子が一回戦で、富津内中、五城目第一中女子は二回戦で、五城目第一中男子は準決勝でそれぞれ敗れた。

優勝チームは男子が能代一中、女子は大湯中、ともに前回の優勝チームであった。全体をとおして、実力伯仲という試合は少なくワンサイドゲームが多かった。と

春の総合防犯運動

犯罪、非行のない明るい町を

四月二十一日から五月二十日まで、春の防犯運動の実施期間である。この期間は、行楽や農繁期のため家を留守にすることが多く、侵入盗犯が多発する。また、行楽地での暴力的迷惑行為なども発生しやすい。犯罪や非行のない明るい町をつくるために、次の重点事項を厳守して欲しい。

一、侵入盗犯の予防

・外出は一声かけて、カギかけて
・チャットの留守でも、必ず戸締りをしてから出かける。
・錠前は、性能の良いものをつけ出入口には主錠のほかに、もうひとつ補助錠をつける。
・外出するときは、必ず隣近所に頼んで出かける。

二、少年非行の防止

・非行化の芽は

・進学、就職などで、少年を取りまく環境が大きく変わる時期のため、とくに家出、怠学、夜遊び、暴走行為、薬物乱用などが多くなる。
・「自分の子供だけは」という考えを捨て、不幸な事態にならないよう日頃から気を配って欲しい

五城目町の石仏

小川元生



慈母観音の座像である。「儀軌」にはない仏であって、民衆の創意によってつくられた仏という。別名に子安、或いは子育観音とも呼ばれている。子宝の恵、そして出産から子育てまでの信仰が込められている。

しかしこの石仏は墓石として造られていて、したがって亡くなった嬰兒への供養のためのものである。そのせいかこの観音像の苦渋が表れている。

愛児を抱く慈母観音は、天台、真言、浄土系の寺によって広められた信仰というが、日蓮宗は鬼子母神信仰がこれにかわっている。

とも見える表情は、失った児に対する切なる悲しみが訴えられているようで、見る人の胸を打つ。

この町に慈母観音像は少ない。今まで目にふれたものは三基を数えるだけである。他の二基は慈母の名が示すように、口元にはほえみを浮かべ、いかにも柔和である。それだけに、悲しい石仏のリアルな表現は、彫った石工の心によるものだろうか考えさせられる。

上田町（かみたまち） 新町内として発足

田町町内会は、一九二二世帯、人口七〇二人をかかえる本町二番目に大きな町内会であるが、四月一日付で、上田町町内会（会長川辺末吉、世帯数三十四）が独立発足した。

この町内は、田町町内を横断している広力野線を堺に下山内部落との間にある新興住宅地で、昭和四十六年頃から開発公社の宅地造成も影響して、急速に伸びてきたところである。

関係住民の機が熟す

町内再編成に関しては、数回となく会議を持ってその取扱い方を協議していたが、関係住民の機が十分熟した時点であるというのを確

呼びなれた町名を
新町内名について

は、数回のアンケート調査や、この地域が現田町町内の上流にあること、四十五、六十年

町」が、関係住民の合意を得てすんなり決定している。

チームワークが誇り

川辺新会長は「初代の会長となって恐縮している。この町内は何といってもチームワークが誇りだと思っている。

老人奉仕団雀館公園を掃除 きれいな公園で花見を

4月24日、五城目老人クラブの人たちが、雀館公園の掃除を行った。
この掃除は、きれいな場所で美しい桜の花を見てもらおうと、毎年観桜会の前に行っている。老人クラブの人たち43名が参加し、冬の間にたまったゴミの処理や、やぶの下払いをした。広い公園も、いっしょうけんめい掃除する老人たちによって、みるみるきれいになった。今年もきれいな公園で花見ができ、老人たちの奉仕活動に感謝したい。



大倉又沢で大熊を射止める

山菜シーズンくれぐれも注意を

百十キロを
越える獲物

東江猟友会（会長伊藤勇蔵、会員一八六名）は、四月二十三日午後二時頃馬場三階の滝附近で、百十三キロにおよぶ大熊を射止めた。

をふまえないように、冬眠からさめ

鈴木さんが熊を発見
大倉又沢は春とは名のみで、雪はまだ厚く一筋を越す深さであった。それでも二頭の足跡を発見して、熊が近くに居る事を知り勇み立った。
熊を包囲して沢から追い出すのが善き狩りだ。二回目の時、勢子（せこ）の鈴木岩雄さんが、山肌を覆っている白銀の中に熊を発見した。

「クマだア、クマだア、クマだア」と三度叫んだ。その声は滝の音を消すほどで、尾根に待ち構えていた射手たちにも届いたほどの大声であった。うろろろしていた熊もその声におどろきあわててかけた。

こう音一発みけんを抜く

尾根でいた佐々木竜二郎さんは熊の走る方向に見当つけないが先回りをして待ち構えた。熊は勢子や射手の声に、峯に向つたり下つたりしたUターンを繰り返しながら、やがて尾根に向つてきた。ペ

テラン佐々木さんは何度もこの緊張感を味っている。ピタリ熊に照準を定め、最も効果の出る至近距離を待った。熊は瞬間の方を振り返った。指は無意識に引き金を引いていた。

大熊を射止めて記念にパチリ



動き出す頃を見計らって、春グマ狩りに出動したわけで、一行十五名は満を持して山へ向つた。

の後頭部から入りみけんを抜いた。パツパツ倒れた熊の鮮血は、春の雪に、紅に染めて、この日の熊狩りに終りを告げた。

昨年熊による被害はいろあつた。水沢、平ノ下、黒土などの畑あらし、栗の木を折って石川さん東江猟友会はそのたびに追いかけるが、空砲に終っている。

今年は機先を制したのがよく、幸先よいスタートだと会員たちは喜んでた。山菜採りのシーズンである。山に入る人は、くれぐれも熊子、熊太郎にご注意を。

高齢者体力づくり教室参加者募集
五月十日まで

昭和五十三年度高齢者体力づくり教室（五月二十三日教室開始式を予定）の参加者を募集しているこの教室は、高齢者の積極的社会参加と、健康づくり体力づくりを多くの仲間と楽しみながら行うことをねらいとしている。希望者は五城目町公民館まで申込みいただきたい。

◎対象 六〇才以上
意欲のある方五十人（男女）

◎締切 五月十日午後五時まで
定員になり次第締切。

◎申込先 五城目町公民館

老人ボランティア四渡園を掃除

四月十八日、十九日、老人ボランティアの人たちが、四渡園の掃除を行った。四渡園を訪れる人たちが、気持ちよく散策できるようにと十三名の老人ボランティアの人たちは、園内のゴミ処理、落葉の焼却やぶの刈払いを行った。

老人ボランティアの人たちは、毎月一回は四渡園の掃除を行っている。若い人たちの協力を期

高松宮杯東北高校選抜レスリング

秋商四度目の優勝

第十七回高松宮杯東北高校選抜レスリング大会が、四月三十日午前九時から広域体育館で、東北各県から九校が参加して行われた。

県内から五城目高校、秋田商業高校、経大附属高校が参加した。試合は48キロ級から70キロ級までの7階級で、トーナメント方式で行われた。

秋田商業は、二回戦で福島、田島高から五フォールをとって圧倒し、準決勝で前回優勝高の青森、光星学園を、五勝二敗で退けた。

決勝は青森、八戸工大第一高を52キロ級を落しただけの好成績で秋田商業は五年ぶり四度目の優勝を飾った。

五城目高校は光星学園に、経大附属高校は山形商業高校に二回戦で敗れたが、試合の内容は悪くない。

高校定期ボクシング

東京チーム

十年ぶりに勝利

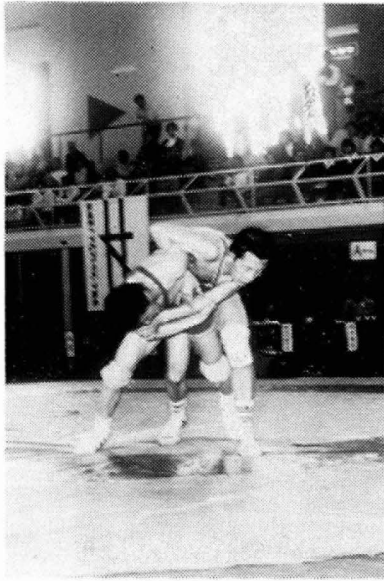
二十九日午後一時から広域体育館において、第二十五回東京都高校対秋田県高校定期ボクシング大会が行われた。

東京都は昭和四十三年の第十回大会以来連敗が続いているので、今年は必勝の意気込みで、のぞんだが、モスキート級からフェ

、今一步というところであった。前大会は、県内高校の成績が悪く、過去秋田県出身の選手が、オリンピックなどの国際試合で、輝やかしい成績を残しているだけに、県内レスリングの先行が心配されていた。今大会の秋田商業の優勝、五城目高校、経大附属高校の活躍は、レスリング王国秋田にとって、大きな成果であった。

成績は次のとおり

・二回戦				
秋田商業	6-1	田島高		
山形商業	4-3	経大附属		
光星学園	4-3	五城目高		
八工大第一	7-0	宮古水産		
・準決勝				
八工大第一	4-3	山形商業		
秋田商業	5-2	光星学園		
・三位決定戦				
光星学園	5-2	山形商業		
・決勝				
秋田商業	6-1	八工大第一		



秋田商対八工大第一の決勝戦



特設リングで熱戦を展開

○関 判定 安田 (金農)	○辻川 判定 佐藤 (秋工)
○京華商	○京華商
○江部 判定 中村 (六郷高)	○ライト級
○京華商	○永田 判定 沢井 (金農)
○京華商	○調布北
○京華商	○ライトウェルター級
○友成 判定 佐々木 (金農)	○岡 失格 伊藤 (金農)
○京北商	○京華商
	1分45秒

広域体育館を無料開放

町内会の運動会に利用を

「町民一人一スポーツ」を目標に、本町の体育施設、設備は年々充実している。また、町民の体力、健康づくりに対する意識も高まりつつある。町は広域体育館を無料開放して、コミュニティ・スポーツの普及と振興に役立てたいと考えている。町内部落会単位の運動会やレクリエーションなどに利用して欲しい。

▽開放施設 五城目広域体育館

▽期 間 昭和五十三年五月十九日～昭和五十四年三月末日

社会体育行事、地域の体育大会行事が重なっている日を除く(夜間の使用可能)

▽対象 町内部落会主催の運動会・レクリエーションのつどい等に使する場合。

▽申込み方法 体育館使用申込み書(広域体育館事務所に有り)に所定の事項を記入のうえ、希望期日の十

五日前まで広域体育館事務所へ提出する。一町内部落会の使用は、今年度一回限りとする。

▽問合わせ先 五城目広域体育館 電話四四一一

気軽な弓道教室開講

～毎週水曜午後五時半から～

四月二十二日午後二時から広域体育館第二体育室で、弓道教室の開講式が行われた。

これはこれまでの堅苦しい形式にとらわれず、だれでも気軽に弓道を楽しめるようにと、五城目弓道矢場崎クラブが主催する教室である。

開講式には約四十名の老若男女が参加した。このうち半数以上が初心者とのこと。この教室には県内でも有数の指導者がそろっており、初心者から上級者まで、十分な指導を受けられる。また室内の弓道場は県内初めてのことであり、各関係者の注目を集めている。初心者のために、練習用の貸し具も備えてあるので、この機会に、弓道に親しんでいただきたい。

・期 日 毎週 水曜日

午後五時三十分～七時三十分

・場 所 五城目広域体育館 第二体育室

・参加料 一回 二百円

(道具使用料含む)

・申込先 五城目町公民館 電話 四四一一





おしらせ

成人病皆検診

胃腸部、循環器、婦人病

自らの健康は自らの手で

県より皆検診事業の指定を受けてから、今年で五年をむかえ、指定事業の最終の年である。家族のみんなが健康であることを、もう一度検診で確かめてみよう。

昭和五十三年度の検診のとりまとめは次のとおり。多数の方が希望し、受診されることをおすめしたい。

▽申込期限 五月十日(厳守)

▽申込先 役場保健衛生課

地区皆検診推進員
(電話で申込んでもよい)

「みのりのポスト」

知事への手紙

県は、県政に対する県民の意見要望等をは握し、住民参加の県政推進を図るため、「みのりのポスト」(知事への手紙)を実施する。この手紙は、県民の意見、要望苦情などを知事が聞き、県政に反

▽受診料金

・胃腸部	自己負担 六百元
町で負担 千二百円	
・循環器	自己負担 七百元
町で負担 千四百円	
・婦人病	自己負担 六百元
町で負担 千円	

(受診料は検診当日受付へ)
◎受診希望申込者に対して、後日実施計画書を送付する。

生ワクチンの投与(小児マヒ)

小児マヒ予防の生ワクチンの投与をつぎのとおり行う。

◎対象者

- ・第一回目投与の対象者 昭和五十二年六月一日から昭和五十三年一月三十一日までの出生者
- ・第二回目投与の対象者 昭和五十二年二月一日から昭和五十二年五月三十一日までの出生者
- ・未接種者 昭和五十二年一月三十一日以前に出生した者のうち、生ワクチンの投与を受けなかった者

◎日程

- ・五城目、面湯地区 五月二十五日(木) 午後一時から二時まで 広域体育館第二体育室 担当医師 畑沢
- ・馬場目、富津内、内川、大川地区 五月二十六日(金) 午後一時から二時まで 広域体育館第二体育室 担当医師 笹尾

注 問診票の事項は、こどもの健康状態を見きわめるため大切なので、保護者は必ず記入のこと。また、当日会場に来る前にこどもの体温を計り、健康状態を確かめて欲しい。

母子健康手帳とスリッパを持参のこと。
くわしくは保健衛生課まで。

身体障害者福祉強調運動

四月二十日、郵政省は身体障害者福祉強調運動にちなんで、郵便書簡を発行した。また、重度の身体障害者(一級、二級)で、同手帳を持つ満六歳(昭和五十三年四月一日現在)以上の方に、この葉書を一人につき二十枚配付する。

配付を希望する方は、身体障害者手帳を持参の上、郵便局に申し出て欲しい。代理の方の申し出でも、郵便による申し出でもかまわない。

- ・受付期間 五月三十一日まで
- ・申し出のための用紙は、郵便局福祉事務所に備えてある。
- ・詳しくは郵便局まで。

不正大麻・けし撲滅運動

五月一日から五月三十一日 五月一日から五月三十一日まで 不正大麻・けし撲滅運動の期間である。今回も昨年と同じく、大麻・けしの不正栽培の防止に重点を置いて実施する。

大麻・けしの不正栽培あるいは自生大麻の処置が、関係機関の努力にもかかわらず、依然として跡を絶たない。

献血推進協議会総会

渡辺秀勝さん等を表彰

四月十九日、昭和五十三年度五城目町献血推進協議会の総会が、町民センターで開催された。

その席上、次の方々が表彰された。これは、人命尊重の趣旨をよく理解し、率先して献血に協力したことが認められ、晴れの受賞となった。

- ・献血回数十八回 渡辺秀勝(田町)、渡辺鉄男(今町)、渡辺カズ子(畑町)
- ・献血回数十七回 菅原昭男(秋田中央交通)
- ・献血回数十五回 伊藤一志(五城目町農協)、佐藤祐治、京野孝之助、佐々木巧(五城目町役場)

五城目町献血推進協議会役員

- 顧問 二沢 安彦(五城目町営林署長)
- 会長 成田 清七(五城目町警察署長)
- 加賀谷力司(五城目町長)
- 副会長 今村久吉郎(五城目保健所長)
- 浜嶋 昭雄(湖東総合病院院長)
- 阿部 千ヤ(五城目町農協組合長)
- 石井 一男(五連青会長)
- 委員 市川嘉宏(五城目高等学校長)
- 北嶋諒一(五城目町公民館長)
- 石井俊一(五城目農協組合長)
- 菊地耕二(五城目町商工会長)
- 千葉金蔵(秋田中央交通 五城目営業所長)
- 伊藤富司(交通安全協会 五城目支部長)
- 佐藤 幸(農協婦人部長)
- 石井三千代(五若連会長)

- ・銀バッジ 石井 文義(築地町)
- ・四月十日 子供用 三輪車 一〇台 長町 石川 兼吉

五城目保育園に寄せられた善意

- ・老人ホームによせられた善意 三月二十五日 菓子、雑誌、セッケン 飯田川町下蛇川羽立三区 羽立三区婦人部

善意銀行預託者

- ・四月十二日 七千円 昭辰町 佐藤 誠(恋地開設スキー場写真コンクルの時の賞金を寄附したもの)
- ・十二日 三千円 中川原 石井 博嗣(恋地開設スキー場写真コンクルの時の賞金を寄附したもの)
- ・十三日 二千元 高崎 匿 名(年金の一部を寄附したもの)
- ・二十日 十万円 紀久栄町 分銅 良一(亡父瑞穂殿の香典返しとして)



電話に注意しましょう